

福井支部ニュース

2023年度 第7号

日本科学者会議福井支部

連絡先：山本雅彦、masahiko@mbp.nifty.com

郵便振込口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部

支部ホームページ <https://jsafukui.net/>

科学者会議本部 <http://www.jsa.gr.jp/>

今号の内容

- ◆2023年度 JSA 福井支部 第9回幹事会の概要報告 (山根 清志)
- ◆例会報告 「頻発する震災！県内、ひずみ集中帯に」 (西川 嗣雄)
- ◆『福井の科学者』福井支部結成50周年記念特大号 のあんない
- ◆報告 住井すゑ文学館と百里平和公園に行ってきました (森 透)

[2023年度 JSA 福井支部 第9回幹事会の概要報告]

2024年2月5日(月)午後6時から第9回幹事会がオンライン方式で開催された。事前に案内のあった議題に従って議事はすすめられた。

1、能登半島地震について

(1) 現状など情報共有

- ・富山大のグループによる地震に伴う海岸隆起の緊急調査が紹介された。
- ・JSA 原子力問題研究委員会声明が発出された。
- ・能登半島地震関連で小野一幹事がJSAに研究助成申請を行った。
小野幹事から支部に対して要望が出され、山本富士夫・山本雅彦両氏、および伊藤勇氏の計4名で調整を図っていくことが了承された。

(2) この間におこなわれた、緊急シンポや緊急学習会などについて

- ① 1/18(木) 原子力市民委員会 緊急オンラインシンポジウム
「能登半島地震から問い直す原発稼働の危険性」

大島堅一(龍谷大学教授)、立石雅昭(新潟大学名誉教授)の各氏が講演

②1/27(土) オール福井反原発連絡会

井戸謙一(弁護士)と長沢啓行(京大工学博士)の各氏が講演。

③1/28(日) JSA 福井支部例会 「頻発する震災！県内ひずみ集中帯に」

岡本拓夫(福井高専教授)氏が講演。オンライン含め約70名が参加。

④2/4(日) 緊急学習講演会 「能登半島地震を踏まえて、若狭の原発群は運転を中止すべき！」 立石雅昭氏(新潟大名誉教授)が講演

原発問題住民運動福井県連絡会と原発住民運動福井・嶺南センター共催

2、『福井の科学者』(140号) 50周年特大号について

(1) 現状について：伊藤幹事から報告があった。

- ・1/15に200冊が納品された。
- ・支部会員に各1、執筆者に各2寄贈、図書館等に送付、計86冊。
- ・支部例会などで、35冊を販売。現在の在庫は79冊。

(2) 今後の拡大号販売について

- ・郵送での注文販売(会員各位が知人などに宣伝し、注文を得た場合)
送付先の住所・氏名・メールアドレス等を伊藤勇幹事へメールで連絡。
伊藤幹事からゆうメールで郵送し、同封の振込用紙で振込み依頼する。
代金は、冊子1000円+送料215円=1,215円。
- ・伊藤幹事から、宣伝用チラシを配布する提案があった。
支部ニュースで、会員へ拡販の案内依頼をする。
別途宣伝用チラシを作成することは、ペンディング。

3、支部例会について

- ・「子どもシェルターふくい」について意見交換し、実施が決定した。
日時：3/16(土) 14:00～ Zoomでリモート開催
森透幹事から、福井の団体「一般社団法人ラシーヌ」が取り組んでいる
「子どもシェルターふくい」などの取り組みについて報告してもらう。

4、北陸地区事務局長会議(2/2(土))

(1) 北陸シンポについて

- ・実行委員長…山本雅彦氏 会計…伊藤勇氏
- ・日時：2024年4月13日(土) 13:30～17:00(210分)
- ・オンライン開催(Zoom)、全国市民公開型 (ホスト 山本雅彦氏)

『福井の科学者』140号「福井支部結成50周年記念特大号」 の あんない 拡大販売に是非ご協力を（福井支部幹事会）

前号の支部ニュース6号で高木秀男氏が、この140号特大号の販売・普及の協力を訴えましたが、この特大号が1月20日付けで発行されました。すでに各支部会員の手元に届いているかと思いますが、再度、拡販の協力をお願いします。

各位の知人・関係者の方々に、拡大号をお勧め下さい。

- ・購入希望の方の、名前、郵便番号、住所を、支部幹事の伊藤勇氏に電子メールでお知らせください。
- ・申込者の方には、本誌「特大号」を郵貯振込用紙同封でお送りしますので、1,215円(誌代1,000円+郵送料金215円)を振り込んでいただきます。

伊藤勇氏のメールアドレス i-ito@u-fukui.ac.jp

特大号には、21編の論考を掲載しています。

1. 原発問題関連の論考など

- ・放射性廃棄物問題の新局面と反原発運動（小野 一）
- ・原子力問題を考える会の活動50年（山本富士夫）
- ・二つの原発勝訴判決（島田広）
- ・大飯原発運転差止訴訟の福井地裁判決をどう活かすか（吉川健司）
- ・福井県内の老朽原発をめぐる裁判の現状（笠原一浩）
- ・311 原発事故から学ぶ避難と安定ヨウ素剤配布について（佐々本真子）
- ・若狭の原発群は何をもたらしたか（その1）（山本雅彦）

2. 福井における住民運動・活動についての論考など

- ・中池見湿地の保存活動を振り返る1990-2023（笹木智恵子・笹木 進）
- なお、この論考には付録として6ページにわたる「中池見関連歴史年表」がまとめられています。

- ・福井・敦賀の空襲とそれを伝える取り組み（木戸 聡）
- ・ゆきのした文化協会と日本科学者会議福井支部との連携（田島伸浩）
- ・住民運動と連携し、県政を動かしチェックしてきた20年（佐藤正雄）

3. 教育・学問分野等における論考など

- ・国立大学法人化以降の大学の状況と課題（寺岡英男）
- ・福井県における子どもの人権を守る取り組みを振り返って（森 透）
- ・教育現場の今は？—過労死・指導死・再任用拒否裁判から考える（海道宏実）
- ・福井大学未払い賃金等請求訴訟と『福井の科学者』（山根清志）
- ・学問・思想の自由と福井工大事件（高木秀男）
- ・建国記念の日と歴史学（松浦義則）
- ・農業基本法制定後60年を検証する（加藤武市）
- ・福祉・医療分野での福井支部会員の活動展開（伊藤 勇）



4. 50年の歴史の振り返り論考

- ・私の日本科学者会議歴50年を振り返る（小倉久和）
- ・『福井の科学者』にみる日本科学者会議福井支部50年の活動（高木秀男）

最後の論考は、支部機関誌『福井の科学者』の編集に長年携わってこられた高木秀男氏による支部機関誌自身についての論考です。

『福井の科学者』に掲載された論文や記事を多数ピックアップ、その時代と背景からそれらの論文を丁寧に読み解き、『福井の科学者』と支部の歴史について論考した14ページの力作です。
(編集子)

【報告】住井すゑ文学館と百里平和公園に行ってきました！！

茨城県つくば市に転居して1年半が過ぎようとしています。地元の方々となつなかりが出来て、妻と一緒にいろいろなところに出かけてます。茨城県は基本的に農村地帯で、福井と同じく保守地盤が強い所ですが、中には革新的な方々もいて、特に妻が新婦人の集いに積極的に参加していますので、私も少し便乗させていただいています。新婦人なので女性がメインですが、支援する男性も少しいますので、私もそれに交じって参加しています。

さて、この連休の10日（土）には牛久沼のほとりにある住井すゑ文学館に、11日（日）は福井の「2・11集会」にオンラインで参加する予定でしたが、急遽、百里基地の中にある平和公園の集いに参加してきました。以下に参加記を簡単に書きます。

①住井すゑ文学館

1月7日（日）に高田馬場の「ともしび」に茨城から団体で参加して、そこで知り合った下妻の方お二人と私・妻の4人で私の車で2月10日（土）初めて住井すゑ文学館に行ってきました。天気は快晴で気持ちよかったです。牛久沼のほとりにある文学館は、2018年にご遺族から牛久市に寄贈され、2021年に牛久市住井すゑ文学館として開館されたとのこと。改修工事をされとても綺麗な建物でした。住井すゑ（1902～1997）は奈良県出身の作家で、1935年に、夫・犬田卯（しげる）の郷里である牛久村城中（現・牛久市城中町）に家族で移住し、以来この土地で執筆活動を行いました。なかでも大作『橋のない川』はベストセラー小説となり映画化もされました。このように、自由と平等を訴える作品を数多く発表した住井すゑの文学館に訪れることができて大変よかったと思います。

②百里平和公園の集い「今こそ平和を語ろう 憲法九条、ここにあり」

茨城県には百里基地があり一度は見てみたいと思っていましたので、今回2月11日（日）に参加することが出来ました。百里平和公園は、なんと百里基地のど真ん中にあるのです！！ チラシには「百里の闘いと言え

ば、基地のど真ん中であって誘導路を『くの字』に曲げている『百里平和公園』が世界の名物になっています。平和公園からは、アメリカの世界戦略に深く組み込まれ、米軍との共同訓練も行っている戦闘機が目の前で右ハンドル左ハンドルと、『くの字』に曲がっていく様子を見ることが出来ます。日本国憲法九条のもとで『自衛隊は憲法違反』を掲げて闘ってきたからこそ、この平和公園をつくるもことができました。平和公園に立てば、憲法九条の存在意義を実感することができます。」とあります。60年以上もたたかい続けている百里農民の平和のこころを受け継ぎ広めていくことが大事だと痛感しました。当日の参加者は今までない規模で約500人と報告がありました。東京からバスで参加された団体もいくつかあって、この集いは県内外からのご支援で毎年やっていることがわかりました。当日は「百里・憲法九条の碑」をたてる除幕式も行われました。茨城も「九条の会」でバスで参加されたようですが、私と妻は自家用車で参加してきました。

以上、二日間連続で少し疲れましたが、初めての訪問と体験で充実した二日間でした。これからも地元の方々となつながら、健康に留意していろいろなところに行きたいと考えています。（森 透）

＜＜編集後記＞＞

2023年度支部ニュース第7号をお届けします。

能登地震による被災地の状況は連日TVなどでも報道されていますが、未だに先が見えない状況が続いています。馳石川県知事すら、岸田首相や自衛隊と同様、1週間以上経ってから現地視察で地元の要望を聞く、などというのはボランティアのつもり？ この「先進国」日本で、一時避難先が体育館、二次避難先がビジネスホテル、という状況が世界にも報道され、「評判」とか。

1995年阪神大震災から29年、その後も2011年の3.11東日本大震災を筆頭に多くの大災害を経験しても、全く災害対策を検討・準備をしていないのです。2016年熊本地震ではもし伊方原発が崩壊したら半島の住民が避難できない、という能登の志賀原発と同じ状況が指摘されていました。一番の問題は、災害大国日本の政官財界のトップが、過去の大災害から何ら学ばず、国民には非常食飲料の備蓄をと「自助、共助」を徹底、災害時の受診にはマイナカードを、などとあさっての話を熱心、その一方、軍備だけは着々と地下基地化を進め世界第3位を守るなど「準備万端」を期す、ことですね。（OG）